

新型コロナウイルス感染を防ぐために

< 厚生課からのお願い >

換気の悪い**密閉**空間 人が**密集**する場所 **密接**した近距離での会話を避けること

なお、次のことに注意して生活して下さい。

1 毎朝、自宅で検温する。

風邪症状・発熱がある場合は登校せず、症状がなくなるまで自宅で休養する。

検温せずに登校した場合、教室に入る前に昇降口や保健室(職員室)で検温する。

熱がある場合は、すぐに、または保健室待機後、早退し自宅で休養する。

次の①②③の症状がある場合は、「かかりつけ医」か「受診・センター」に電話相談をする。

【電話：019-651-3175 FAX：019-626-0837】

① 風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いている。

② 強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある。

ただし、基礎疾患等のある場合は、上の状態が2日以上続く場合

③ 味覚・臭覚に異常がある(味や臭いが分からない)。

※ **SHR時、担任が発熱・体調不良の有無を確認する。**

2 校舎に入ったら、まず昇降口で手指を消毒する(昇降口に消毒液あり)。

3 体育・移動教室後外から教室に入る時、トイレの後、食事の前後等は、こまめに流水・石鹸で手指を洗う。(ハンカチ・タオルは個人持ちとし、共有しない。)

4 週番・保健委員は、教室・活動場所等をこまめに換気する。休憩時間毎、対角線上の窓を開ける。廊下側上の窓は常時開けておく。

※ **授業終了時、教科担任は換気の声がけをする。**

5 咳エチケットを徹底する。食事の際は、会話をしないこと。部活動でも同様である。

6 マスクを着用する。

7 他の生徒の席に座ったり、他のクラスへの出入りは、必要最小限にする。

8 健診・検査等、集団で活動する場合は、2m程度間隔を空ける。

9 清掃時、教室・トイレ・昇降口等の生徒が多く触れる場所(ドアの取手・スイッチ)を1日1回以上消毒する。

10 部活動等において、用具や備品の共用はできるだけ避け、共用を避けるのが難しい物については、使用后、流水・石鹸で手指をよく洗う。

11 部活動において、

12 部活動等における試合や交流会等において、他県の生徒や感染拡大地域の生徒との接触がある場合、十分な感染対策を行うこと。感染状況によっては、参加を控えること。(参加承諾書の提出)

13 PCR検査又は、抗原検査を受ける場合には、必ず学校(担任)に連絡し、結果判明後も報告すること。

《手洗いの方法》

石鹼で60秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎを2回繰り返す。

《手指の消毒》。

消毒液（キレイキレイ）を使用する。

※ 生徒昇降口(3ヶ所)、1体入口(2ヶ所)、2体入口手洗い場(1ヶ所)

各トイレ手洗い場(各1ヶ所)、各HR、黒陵会館(1ヶ所)に設置している。

《生徒が多く触れる場所の消毒》……ドアの取手、スイッチ

次亜塩素酸ナトリウム濃度0.05%の消毒液を使用する。

※ 塩素系漂白剤（キッチンハイター・ハイター）を薄めて作製する。保存できないので、毎日作製する。
作製は、美化活動委員・保健委員・厚生課で行う。

～消毒の方法～

- ① 担当者は、清掃時または放課後、消毒セット（消毒液・ペーパータオル・雑巾等）を保健室に取りに行く。
- ② 消毒液をペーパータオルに十分に染み込ませて拭く。その際、手袋をして作業する（石鹼で手指をよく洗ってから手袋を使用すること）。
※スプレーボトルでの噴霧は、ウイルス飛散の可能性があるため、好ましくない。
- ③ よくしぼった雑巾で水拭きする。（使用した雑巾はよく洗う。）
- ④ 使用した手袋・消毒液のボトル・雑巾は、終了後すぐ保健室に返却する。
（トイレで使用した手袋はトイレで保管。他はよく洗って保健室へ。）

※ その他

ア 各トイレ・水飲み場の消毒（ドアノブ・スイッチ・蛇口・水洗レバー等）は、清掃時間内に清掃当番が行う。担当の先生（または清掃当番の生徒）が保健室に消毒セットを取りに行く。手袋はトイレにあるものを使う。使用したペーパータオルは、トイレのゴミといっしょに、必ずその日のうちに、外のゴミ置き場に捨てる。

イ トイレ以外の消毒は、美化活動委員・保健委員・1階廊下・昇降口の清掃当番が行う。

- ① 2階～4階の消毒（各教室のドアの取手等）は、清掃終了後、美化活動委員・保健委員が行う。
（4階：1年、3階：2年、2階：3年）
- ② 1階（各教室のドアの取手・昇降口の扉）は、清掃時間内に1階廊下・昇降口の清掃当番が行う。
- ③ ①②のいずれの場合も、使用済のペーパータオルは教室のゴミ箱には捨てない。保健室で回収し、その日のうちに外のゴミ置き場に捨てる。

ウ 消毒液使用時は、必ず換気する。

エ 手荒れの可能性があるので、消毒液には直接触れないよう、また手指の消毒には使用しないこと。また、目に入ると失明の恐れがあるので注意する。